

文部省科学研究費基盤研究 (A) : 10301010

家族生活についての全国調査 (NFR98) 報告書 No. 2-4

# 現代日本の家族意識

Family Consciousness in the Contemporary Japan

清水新二編

2001年6月

日本家族社会学会  
全国家族調査 (NFR) 研究会

## 刊行のことば

本報告書は、日本家族社会学会の全国家族調査研究会によって行われた全国家族調査（略称 NFR）の研究成果報告書『全国家族調査（NFR98）シリーズ』のうちの一冊である。

本調査の概要は、日本家族社会学会の全国家族調査（NFR）研究会によって 2000 年 7 月に刊行された報告書『家族生活についての全国調査（NFR98）-NO.1』に示されている。同報告書においては、調査のねらいとデザイン、調査結果の概要、および基礎資料が掲載されている。本シリーズとともに参照していただきたい。この『家族生活についての全国調査（NFR98）-NO.1』を第一次の報告書とすれば、今回の報告書シリーズは、第二次の報告書（NO.2）ということになる。「家族キャリア」、「親子関係」、「夫婦関係」などテーマごとの分冊（シリーズ）として刊行されることになっている。

簡単に調査の特性を示しておこう。

本調査の目的は、官庁調査では捉えきれない、家族社会学の視点による日本家族の全体像の把握、一定期間を開けて繰り返される継続調査として定点観測することによる家族変動の的確な分析、全国をカバーする確率標本による国際比較可能なデータの蓄積、そして何より、こうした信頼できる豊富なデータを研究者の間で広く共有できるようなデータの公開、などをあげることができる。

NFR98 は、大正 10 年 1 月 1 日～昭和 45 年 12 月 31 日生まれ（1998 年 12 月時点で満 28～77 歳）の男女を対象として、1999 年 1 月に実施された。対象者の確定時点にもとづいて、本データは「NFR98」と呼ばれる。層化多段抽出法で標本数は 10,500。全国 535 地点。訪問留置法で調査の実施は（社）中央調査社に委託した。

調査票は、昭和 16～45 年出生者は一般調査票、大正 10～昭和 15 年出生者は高齢者調査票を用いた。これら調査票は 19 ページまでは同一、高齢者調査票はさらに 6 ページが加わる。

回収票は 6985、回収率 66.5%。うち男性票 3323（64.35%）、女性票 3662（68.62%）である。

本調査は、文部省科学研究費（基盤研究 A 研究代表者・森岡清美「日本現代家族の基礎的研究」平成 10 年～12 年）の助成を得て可能になった。さら

には、長寿社会開発センター、アジア女性フォーラムほかにも援助を受けた。

日本家族社会学会には、費用の面だけでなく、人的かつ組織的に多大な支援を得た。本調査の企画以来、森岡清美先生、正岡寛司先生、袖井孝子先生の三人の歴代の会長にとくに感謝したい。

NFR98データの一般公開をできるだけ早い時期に実施すべく準備を進めている。本報告書シリーズを端緒として、NFR研究の継続と発展、さらには現代日本の家族研究のよりいっそうの推進が課題となろう。関係の皆様には、今後ともいっそうの御指導と御支援をお願いする次第である。

2001年3月

日本家族社会学会

全国家族調査（NFR）研究会代表

渡辺秀樹

## 研究組織

研究代表者 森岡清美 (淑徳大学社会学部教授)

研究分担者 正岡寛司 (早稲田大学文学部教授)  
篠崎正美 (熊本学園大学社会福祉学部教授)  
松田苑子 (淑徳大学社会学部教授)  
石原邦雄 (東京都立大学人文学部教授)  
藤見純子 (大正大学人間学部教授)  
渡辺吉利 (国際医療福祉大学医療福祉学部教授)  
清水新二 (国立精神・神経センター精神保健研究所室長)  
渡辺秀樹 (慶応義塾大学文学部教授)  
神原文子 (相愛大学人文学部教授)  
大久保孝治 (早稲田大学文学部教授)  
岩井紀子 (大阪商業大学総合経営学部助教授)  
木下栄二 (桃山学院大学社会学部助教授)  
稲葉昭英 (東京都立大学人文学部助教授)  
嶋崎尚子 (早稲田大学文学部教授)  
加藤彰彦 (帝京大学文学部専任講師)  
田淵六郎 (名古屋大学文学部専任講師)

## 予算

平成 10 年度	3,810 万円
平成 11 年度	130 万円
平成 12 年度	150 万円
合計	<u>4,090 万円</u>

## 現代日本の家族意識

### 目次

序 論	清水新二	1
1. 親子関係に関する家族意識—性別・世代別比較—	熊谷 (松田) 苑子	9
2. 心身の健康意識度の現状とその要因	藤井廣美	23
3. 配偶関係、ジェンダーと心身的ディストレス—CESD (うつ的傾向尺度) 得点の分析—	清水新二	47
4. 自己報告ディストレス尺度構造の日米比較—NFR、NSFHを用いて—	菊澤佐江子	67
5. 家族ライフスタイルの重層化に関する仮説構築—NFR98データの分析を通して—	野々山久也	81
6. 主観的家族境界からみる親子ライフスタイル	春日井典子	97
7. 妻の家族ライフスタイル選択の自由について—家族生活について感じられている苦痛を 手がかりに—	片岡佳美	111
8. 高齢者による子との居住関係の選択とその規定要因—同居・隣居・近居・遠居をめぐって—	中里秀樹	121
9. 短縮版CESD-Dの短縮へ—回答傾向および尺度構造の検討—	木下栄二	141
10. 無回答の発生	田中重人	155

# Family Consciousness in the Contemporary Japan

Edited by Shinji Shimizu

## CONTENTS

Introduction: National Family Research Survey and the Consciousness of Family *Shinji Shimizu*

1. Perspectives on Parent-child Relationship: Gender and Cohort Comparison

*Sonoko Kumagai-Matsuda*

2. The Present Situation and Factor in Health Consciousness of Mental and Physical

*Hiromi Fujii*

3. Marital States, Gender and Psychological Distress: An Analysis of CESD Score

*Shinji Shimizu*

4. The Structure of Self-Reported Distress in the United States and Japan: NFR and NSFH

*Saeko Kikuzawa*

5. Construction of a Hypothesis on the Pluralization of Family Lifestyles: Through an analysis on  
NFR98 data *Hisaya Nonoyama*

6. Parent-child Lifestyle in a View of the Subjective Family Boundary

*Noriko Kasugai*

7. Wives' Freedom of Choosing Family Lifestyles: A Discussion Approached from Wives'  
Distress for Their Family Lives

*Yoshimi Kataoka*

8. Determinants of Living Arrangements of the Elderly and Proximity of Their Children

*Hideki Nakazato*

9. Examining 16 Items Short Version CES-D Scale

*Eiji Kinoshita*

10. Invalid Answers

*Sigeto Tanaka*

---

家族生活についての全国調査報告書 (NFR98) No. 2-4

**現代日本の家族意識**

清水新二編

2001年6月発行

発行：日本家族社会学会・全国家族調査 (NFR) 研究会

〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1

早稲田大学文学部大久保孝治研究室 (事務局)

---



古紙配合率100%再生紙を使用しています